

下痢仔牛に断乳を試みよう

根室南部事業センター 第二家畜診療課 獣医師 澤田 尚 利

【はじめに】

仔牛の下痢症は、仔牛の疾病の中でも最も多い疾病の一つであります。現場において、「元気はあるし、飲む気満々なのに、内服しても下痢が治らないんだけど、どうしたらいい？」という相談をよく受けます。下痢症の治療には、内服薬、抗生物質、消炎剤、補液等がありますが、断乳という方法がとられる事があります。

酪農家さんに聞き取りしたところ、下痢したら必ず断乳を行う酪農家さんと全く行わない農家さんとはっきり分かれていました。私の所属する根室南部事業センターでは、約7割の獣医師が断乳を行うという回答がありました。

今回、断乳することで下痢の改善が見られたので、紹介します。

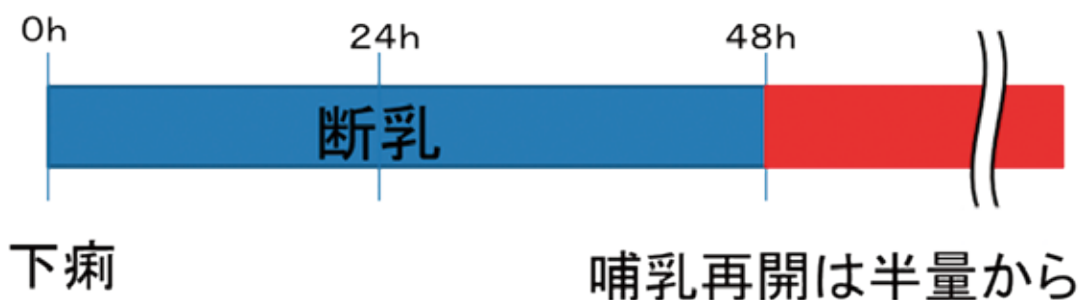
【断乳の目的】

断乳を行う事で期待される効果は、吸収不良性下痢の軽減、腸粘膜の自己修復、細菌の栄養となる蛋白質や糖分の軽減などが言われています。簡単に言うと、消化不良で腸内に残留したミルクを、断乳によって下痢便として体外へ排出し、腸管内を清浄化し、腸粘膜を休ませる事が目的です。

【今回行った断乳方法】

断乳を行ったのは、活気・哺乳欲が良好で水様性下痢を呈す仔牛です。

とあるロボット飼育牛群で、下痢仔牛を見つけ次第、ペン飼育とし、他の個体との接触を遮断した状態で断乳を行いました。断乳中は、経口電解液を朝晩2回給与と自由飲水のみとしました。断乳24時間後、48時間後に活気や便状態のチェックを行いました。そして断乳48時間後、通常の半量から哺乳再開し、少しずつ通常哺乳量へ戻しました。

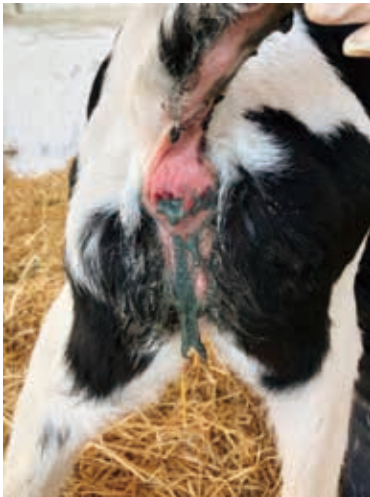


【まとめ】

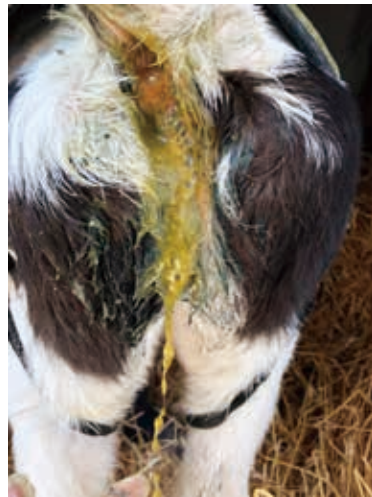
今回は、「適切な環境下にて他の個体との接触を遮断し、2日間の断乳を実施、その間は経口電解液を給与し、自由飲水させる。その後、通常の半量から哺乳を再開する。」という方法にて下痢便の改善が見られました。様々な条件にて検証した結果、生後2週齢以下の下痢仔牛や断乳を一日で止めた仔牛では、断乳による下痢の改善が見られませんでした。今回の仔牛は清潔なペンで飼養されており、保温もしっかりされていた為、断乳中に血糖値の低下は見られませんでした。断乳は、清潔な環境や保温等の条件が前提だと思います。今回、多数の下痢仔牛で便状態の改善は見られたので、この方法で改善が見られなかった場合、他の原因を追究し治療する必要があるかもしれません。下痢仔牛に対する断乳は治療費の削減にも繋がり、また早期の回復が期待出来るのではないのでしょうか。私が紹介させて頂いた断乳方法は、あくまで一例ですが、参考にしていただければ幸いです。

ホル♀ 生後16日齢：

何度も内服薬等治療するも、下痢の治らない仔牛に断乳を行って治った仔牛です。断乳を2日間行くと下痢は治り、その後下痢の再発は見られませんでした。



断乳前



断乳24h後



断乳48h後

ホル♀ 生後11日齢：

生後2週齢未満の仔牛では、下痢便の改善が見られませんでした。



断乳前



断乳24h後



断乳48h後